

水をめぐる旅

鶴舞公園

平成三十一年三月発行
編集・名古屋市環境局
連絡先電話番号・052(972)2675

名古屋市実測全図（明治37年）
[名古屋市教育会編纂、市政資料館所蔵]



名古屋市都市計画写真地図（昭和30年）

鶴舞公園の歴史

精進川と新堀川

(明治30年頃まで 龍ヶ池等の築造、新田開発など)

明治40年 精進川改修工事の浚渫土砂で埋め立て開始

明治42年 御器所村だった公園敷地を名古屋市に編入

明治43年 「鶴舞」(つるま)公園とし、名古屋市第一号の公園が誕生

明治45年 第10回関西府県連合共進会開催。共進会に向け、噴水塔、胡蝶ヶ池、鶴ヶ池(現存しない)などが築造された

公園の本格的整備開始

大正2年 私立名古屋図書館(教育会経営)設置

大正7年 鶴舞公園附属動物園設置

大正8年 八幡山古墳を公園敷地に編入

大正9年 鶴舞公園ほぼ完成

大正12年 市立名古屋図書館(現・鶴舞中央図書館)開館

昭和3年 名古屋博覧会開催。鶴々亭建設

昭和12年 東山動物園の開園に伴い、動物園が閉園

昭和16~20年 国鉄中央線鶴舞駅設置

昭和24年頃 昭和16~20年 太平洋戦争。浮見堂などが空襲により焼失

昭和26年 食料不足が深刻な時、菖蒲池や芝生広場等は耕作地として使われた

ベビーゴルフ場として使用されていた

菖蒲池の改修が一部完了、菖蒲まつり再開

年表：名古屋の公園 100年のあゆみ(名古屋市・財団法人名古屋市みどりの協会発行)をもとに再構成

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

平成12年

平成18年

平成21年

平成26年

昭和24年頃

昭和26年

昭和30年

昭和37年

昭和48年

昭和52年

昭和59年

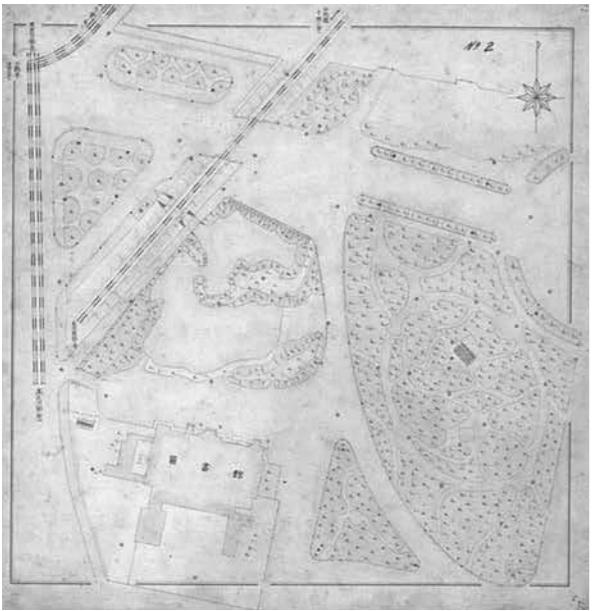
平成12年

平成18年

平成21年

鶴舞公園を水から眺める

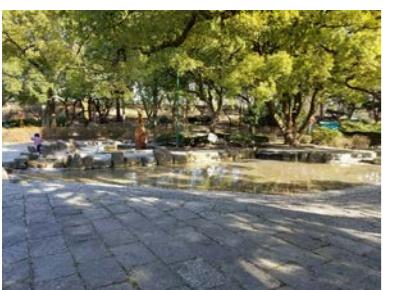
これまで見てきたように、水利が課題であった台地（東側）と、水害が課題であった低地（西側）の両方の歴史を持つ鶴舞公園。現在の姿を「水」という視点で見てみましょう。



鶴舞公園平面図 2/10 正門、図書館 (大正 12 年)
【名古屋の公園 100 年のあゆみ資料編 p83 (H24.3 名古屋市・財団法人名古屋市みどりの協会)】

■図書館北、現在はベビーゴルフ場となっている場所に、かつては鯉ヶ池と呼ばれる池がありました。明治 41 年に掘削された池で、竜ヶ池の水が、胡蝶ヶ池、動物園内を流れこの池に注ぎ、さらに中央線の下をくぐって新堀川へ流れていきました。昭和 12 年に動物園が東山に移動してからは流れもとまり、池の水も溜り水のみとなり、昭和 26 年ごろより埋立られ、ベビーゴルフ場として使われています。参考文献：鶴舞公園（鶴舞公園振興協会・中部庭園同好会）

■鶴舞公園に図書館ができるのは、大正 2 年（1913）の「私立名古屋図書館」が始まりです。その後、大正 12 年（1923）に市立となるとともに、鯉ヶ池畔（ほぼ現在の中央図書館の位置）に移転しました。その後、何度か建て替えが行われ、現在の図書館建物は、昭和 59 年に竣工しました。
■現在の図書館地下 1 階中庭では、湧き水を見ることができます。



■市内では貴重な水遊び場。
夏には子どもたちでぎわいます。

■胡蝶ヶ池は、共進会に向けて造られた池です。池の中央には東西に渡した鈴菜橋をかけ、左右の池がチョウの羽を広げた形になっています。太平洋戦争後に進駐軍に接収された時に不衛生であるといつ理由から埋立られて芝が張られ、数年間はベビーゴルフ場となっていました。昭和 27 年に接収が解除され、昭和 30 年に復旧しました。参考文献：昭和区史 p.202



■噴水塔西側の「対称池」と東側の「大池」は、大正 3 年（1914）に噴水塔の修景と霧よけのためにつくられました。参考文献：昭和区史 p.200



■噴水塔は、当時の名古屋高等工業学校（現・名古屋工業大学）教授鈴木禎次氏の設計により、第 10 回関西府県連合共進会会場の施設として建設されました。戦災にも耐えましたが、地下鉄鶴舞線が噴水塔下を通過することになったため、昭和 48 年にいったん解体され、地下鉄完成後の昭和 52 年に復元されました。なお、現在の水源は水道水です。

■地下鉄工事中は、晴天時でも土留矢板の間から勢いよく地下水が出ていたそうです。
このことからも、このあたりは水が豊富であることがわかります。
参考文献：名古屋の公園 100 年のあゆみ



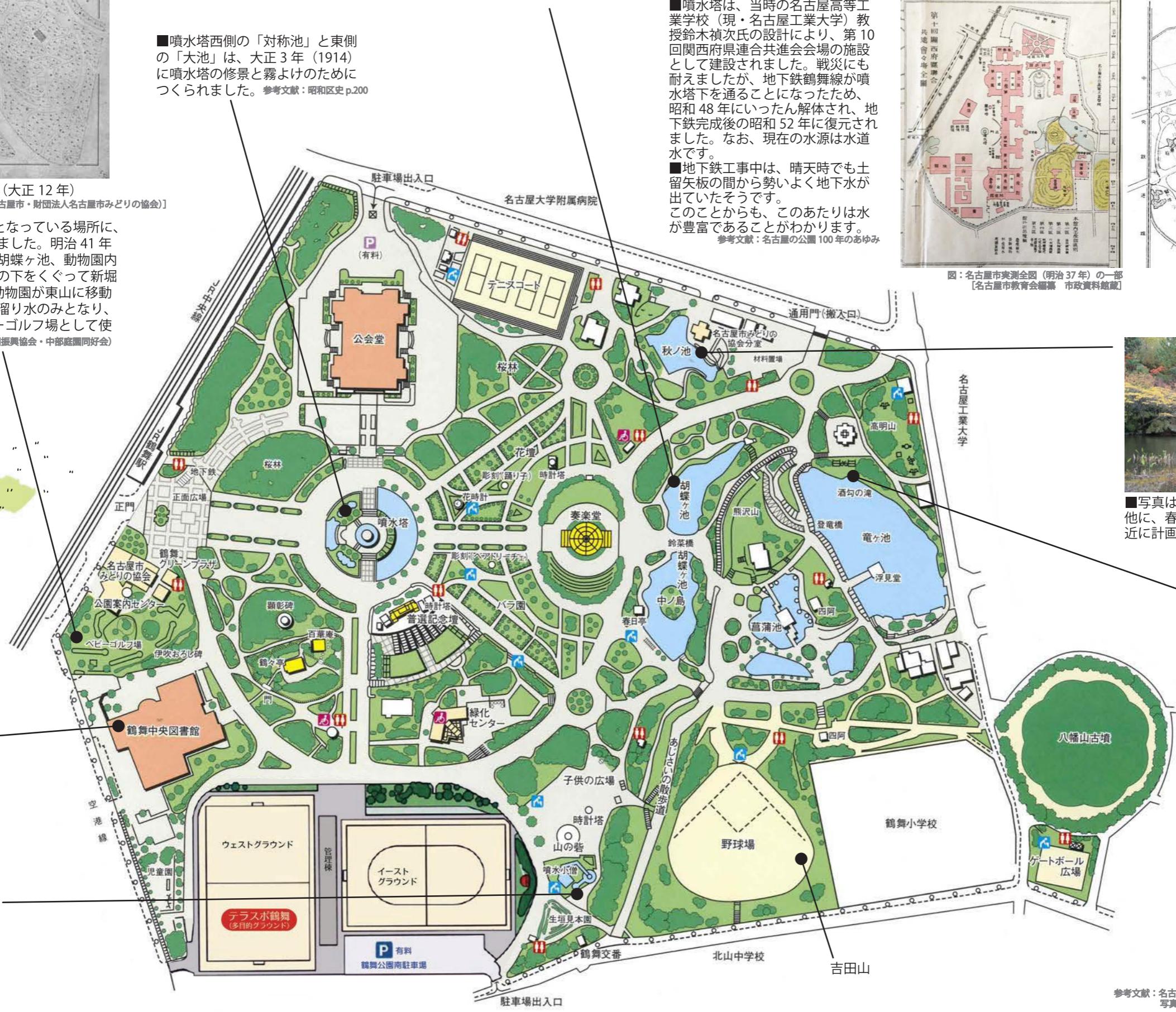
図：名古屋市実測全図 (明治 37 年) の一部
【名古屋市教育会編纂 市政資料館蔵】



図：鶴舞公園設計及び旧字図 (大正 4 年)
【名古屋の公園 100 年のあゆみ資料編 p.83】



■写真は、共進会後の公園整備でつくられた秋の池です。他に、春の池がテニスコート付近に、夏の池が公会堂付近に計画されていました。



参考文献：名古屋の公園 100 年のあゆみ
写真：名古屋市市長室広報課



■昭和 29 年、竜ヶ池東南端の道路拡張に伴い、池の一部埋め立てを行いました。かつては豊富な湧き水と東の狭間町方面からの水流により美しかった竜ヶ池の水も、この頃には、周辺の市街化と下水道の整備により補給水が絶たれて汚れてしましました。そこで、若宮大通北にあった日本麦酒株式会社名古屋工場から冷却水の余り水の供給を受けることになり、昭和 30 年、地下配管によって竜ヶ池への給水が始まりました。池への落ち口は、落差 4 m の滝となり、池への給水に協力を惜しまなかった当時の工場長の酒匂（さこう）氏にちなんで「酒匂の滝」と名づけられました。

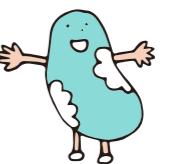
■平成 12 年、同工場の閉鎖に伴い、池への給水は終了し、現在は、公園内に設置した井戸から竜ヶ池、胡蝶ヶ池、秋の池へ水が補給されています。



鶴舞中央図書館の湧き水

鶴舞中央図書館の地下1階には中庭があり、そこにはいくつもの湧き水があります。擁壁に設けられた水抜き穴から湧き出していることや、湧き水を水源とする水盤が設置されていることなどから、今の図書館ができた当初から存在したと考えられます。地下水は、年間を通じて温度変化が小さく、冬は温かく夏はひんやりと感じることができます。

水量が一番多く、1分間に約120リットル。水質も水道水質基準にわざわざ満たないものの、大変良好です。
(立入禁止エリア。イベント時のみ公開)



これ以外の地点でも、湧き水が見られる場所があります。

排水路に設けられた水抜き孔から湧き出しています。湧出量は1分間に約10リットル。

上の写真は全て、整備前のものです。現在は、地点Bの湧水を活用し、市民のみなさまが直接湧き水に触れ、量や水温などを感じることができます。下の写真の施設を整備しました。1の地点は、図書館の開館日ならいつでも見ることができますので、ぜひ一度お越しください。

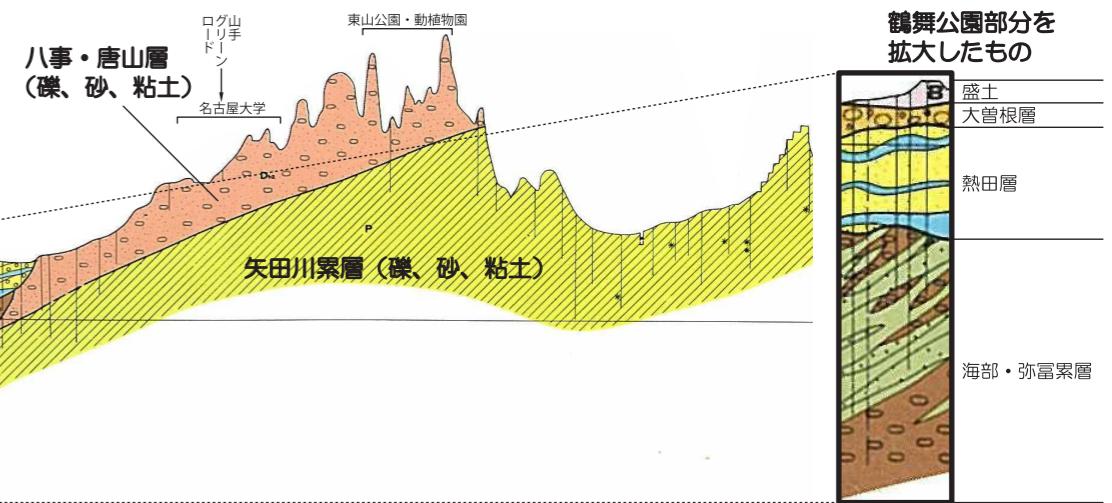


図2 名古屋市域の縦断面図（切断面は図1参照）【名古屋市地質断面図集 昭和62年 名古屋市公害対策局 のうち5'- 断面の一部】



図3 鶴舞公園周辺の表層付近の地質
[名古屋市済水マップ(平成5年名古屋市環境保全局)の一部]
※同マップは名古屋地域地質図(昭和63年社団法人 土質工学会中部支部)を参考に作成したもの

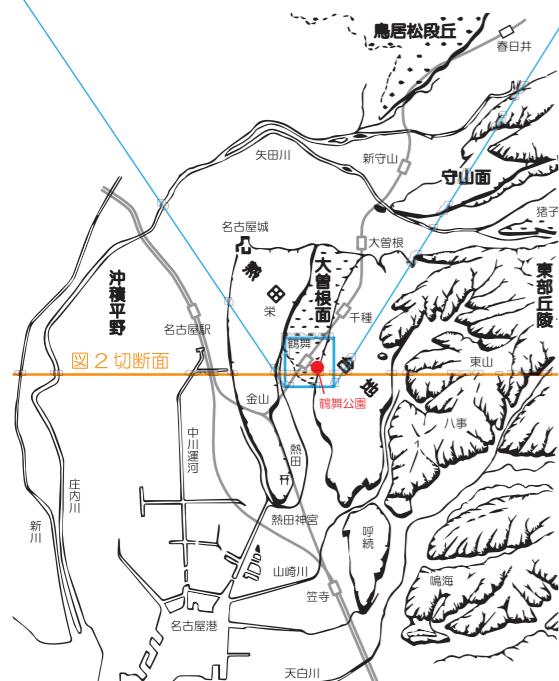


図1 名古屋市域の地形
最新名古屋地盤図(昭和63年社団法人 土質工学会中部支部) p26をもとに作成

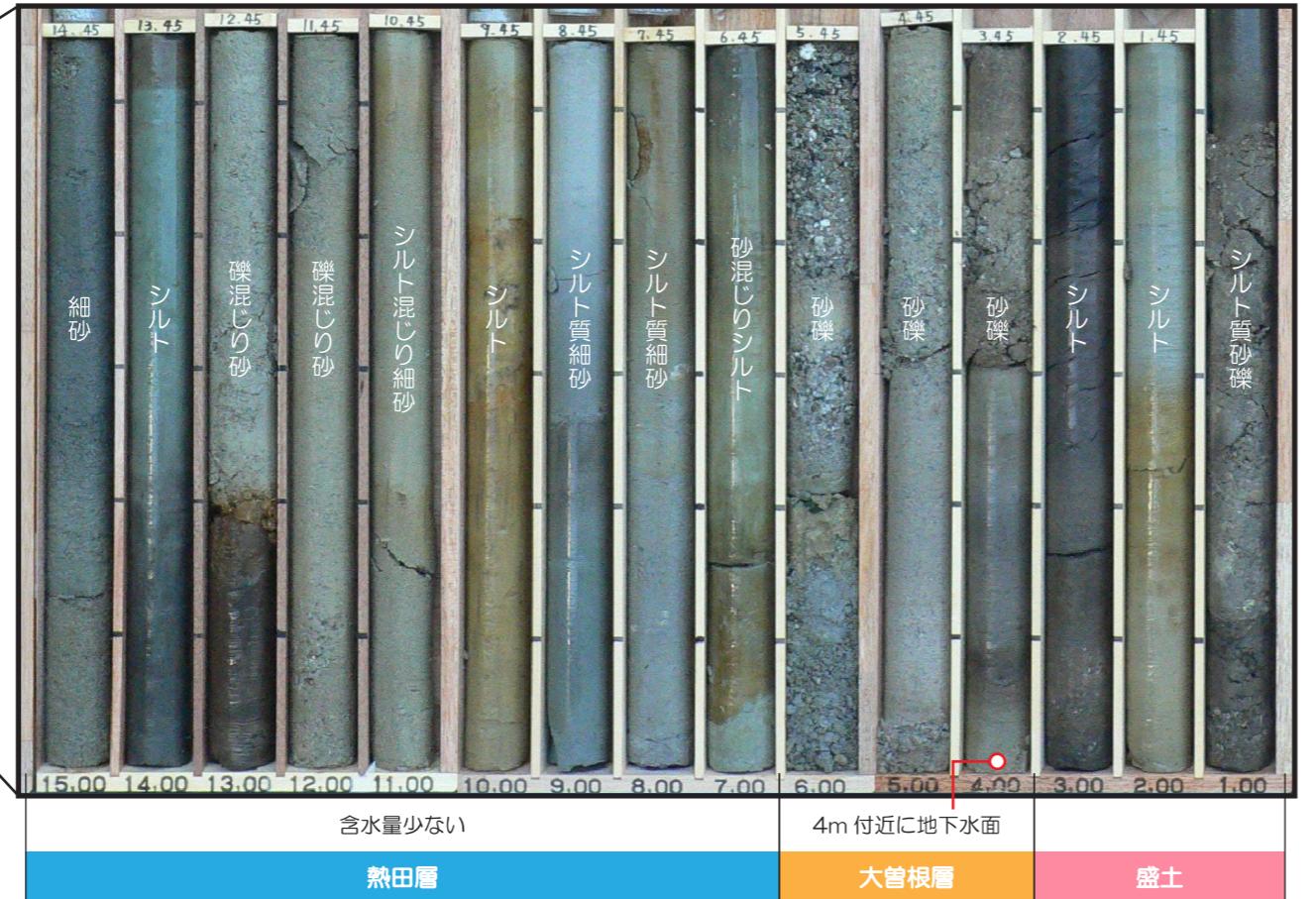
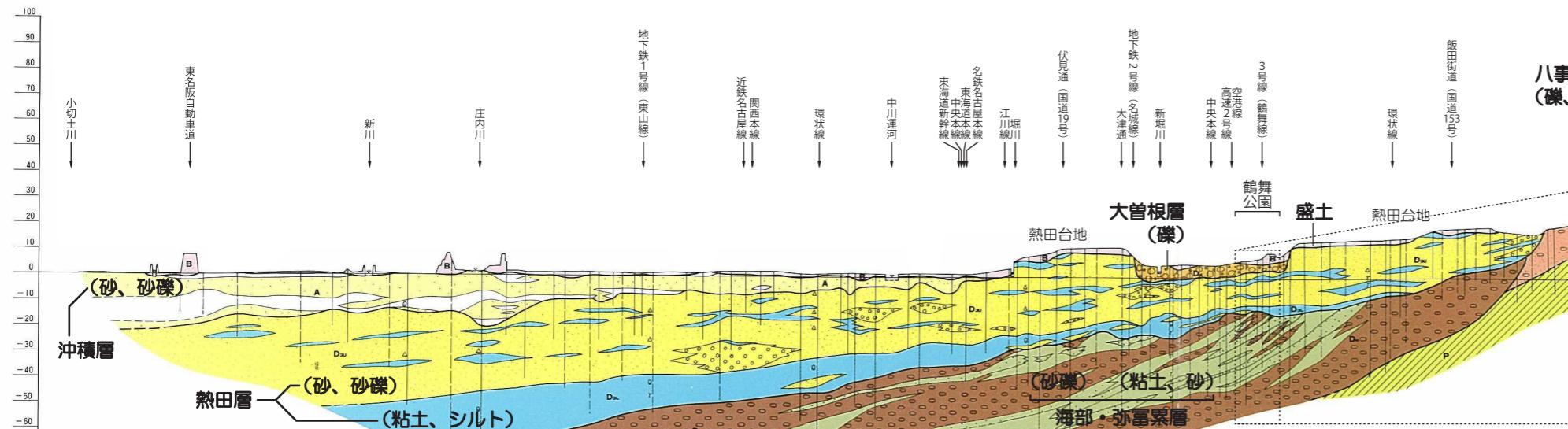


図4 ボーリング調査によるコア写真(平成28年名古屋市環境局)
写真的数字は、地下深度を示します。例えば、右から2番目のコアは、地表面下1.45~2.00mのものです。

名古屋市域の地形は、図1のようになります。市域の地質を断面で見ると、図2のように、西から東へ沖積平野、台地、丘陵に分けられます。名古屋市域の地形は、図1のようになります。台地（熱田台地）の中央部には、周辺より2~3m低い大曾根面が南北に伸びています。大曾根面は、かつて熱田台地の上を川（今の矢田川または庄内川の昔の流路）が流れ、台地を削りながら砂や礫を堆積した「大曾根層」と呼ばれる水を通しやすい地層からなります。

図4は、図書館の湧き水の由来を調べるために、平成27年に、付近で地下15mまでの地質を調査したときの写真です。地表近くに分布する盛土は、新堀川建設の際に出土した土砂を埋め立てたものの可能性があります。その下には、水を通しやすい砂礫層が確認され、これが大曾根層と考えられます。さらに下には、水をあまり通さないシルトの層があり、これより下の地層には水分があまり含まれていませんでした。

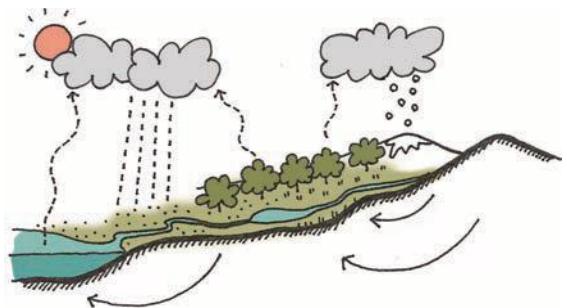
これらを考えあわせると、鶴舞中央図書館の湧水は、大曾根面およびその周囲の熱田台地等に降った雨が、大曾根層の地下水となり、図書館建設に伴って掘削された壁面から湧き出したものと推定されます。

このリーフレットについて

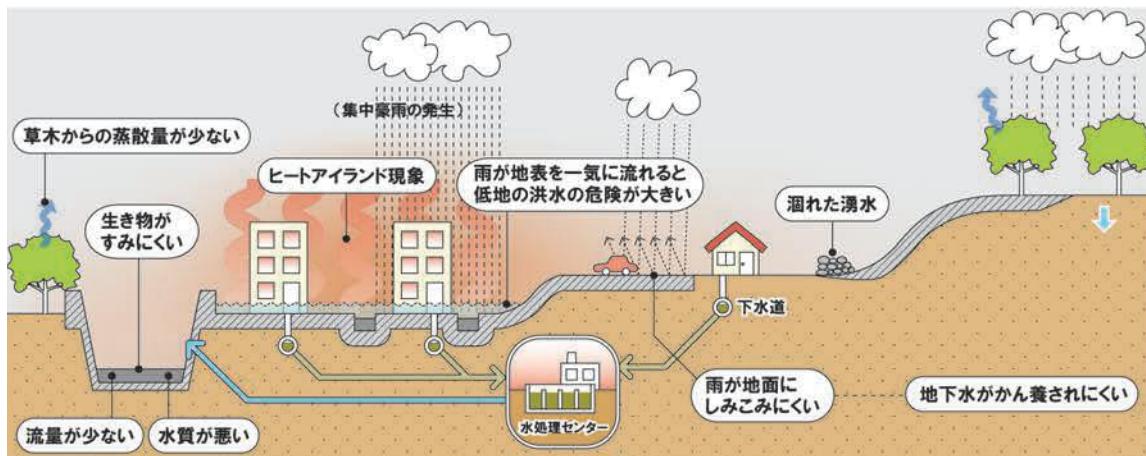
表紙の地図（明治37年＝1904年）を見ると、この地域が田んぼの広がる農村だったことがわかります。

昔、降った雨はこんな動きをしていました。

- ・雨が降ると、一部は、地面にしみこんだり、池に貯まったりしながら、ゆっくり移動します。
- ・しみこんだ雨の一部は、土の中を流れながらきれいになり、少しずつ湧き出します。湧き出した水は、川や池などの水量、水質を安定させます。
- ・しみこんだ雨の一部は、木や草の根っこに吸われて、葉っぱから蒸散します。水は、蒸発するとき、まわりを冷やしてくれます。



時期はそれぞれ異なりますが、都市化は、名古屋市のほとんどの場所ですすんできました。現在は、市域の多くの場所がアスファルトやコンクリートに覆われ、このことが都市の環境問題の一因となっています。

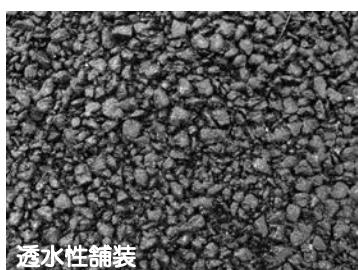


都市化とともに生活は便利になりました。でも、雨が地中にしみこんだり蒸発したりすることが少なくなって、水害対策が大変になったり、まちが暑くなりやすくなるなど、新しい問題も起きているんですね。



こうした状況に対し、名古屋市では「水の環復活2050なごや戦略」を定めています。これはひとことで言うと「昔の水循環の良いところを今できる方法で復活させて、無理なく安全で気持ちいい名古屋にしよう！」というものです。

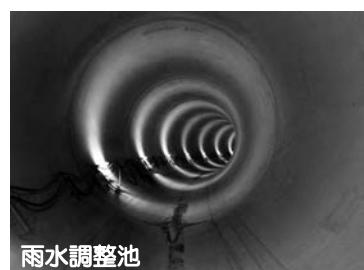
たとえば、市では、みなさまにもご協力いただきながら、こんなことをしています



透水性舗装



浸透式トレーニング



雨水調整池



森づくり

そして、市域の約6割が民有地ですので、名古屋市で暮らすみなさまひとりひとりに、雨をためる・地面にしみこませる、蒸発させることにご協力いただきたいと考えています。

ひとりひとりには、たとえばこんなことができます



雨水をためる



緑をふやす



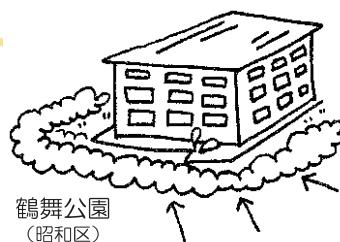
打ち水をする

でも、

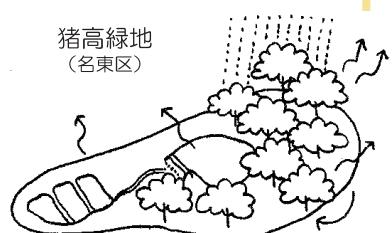
なんかイマイチ、
よくわからないな…
湧き水なんてあったっけ？



…という方が多いのが現実ではないでしょうか。



鶴舞公園
(昭和区)



猪高緑地
(名東区)

市では、水循環について感じて、学んでいただく事業を、郊外（猪高緑地）と都心部（鶴舞公園）で実施しています。鶴舞は、水に関わりの深い歴史的な場所。湧き水を見て、触って、歴史を紐解いて、都市も水循環の舞台だということに思いを馳せていただければ幸いです。